

紳士になる

今年の流行色

ワイシャツはブルー
帽子はネズミ

の春の紳士服商品の流行色を——ものが出現——

不
破
數
石
商
門
(3)

悟道軒圓王演

中一彌書

義士銘傳

大正十一年

金山出帆 出帆廣告

博多行
對馬支店、長崎支店
豐多丸 每禮拜四、九日、十四日、十九日、廿四日、廿九日、午後二時出帆
註：廿六日（即開會被下座殿）
釜山第一發船

九州郵船株式會社 出張所

電話 二二二二

仁川出帆

代理店 三井物產株式會社

A black and white photograph of a woman lying down, looking upwards with her arms raised. She is wearing a light-colored, buttoned-up shirt. The image has a grainy, high-contrast quality.

はれる春のものとして、ミッド・カラー（《除根し》）が相當な色でせう。

スボークの装束によつて髪はすべてこむたまでスボークワシヨンといふ言葉さゝあるに、癖子スボーク・イになつくやうです。髪もこの大なる鏡く、二時六分の一が四分の一、若い人向きにはスボーク髪、男はオフ・ザ・ウエース髪のがつちりした人にはアツシヤツ、今年の色は

眼鏡です、眼鏡自然體價になつて

骨の力

【問】二十歳女は瘦身なるといふ病ざらなりと云ふ事ありしが腰脚痛等して膝頭屈伸難し、恰も背中の骨に硬化など覺ゆ、此を退治に多少努力すべし、これを診断するに如何とありしや

居るやうに静かにゐる。靜もあり、動もあるが驚くではない。眼へは内匠の赤い唇印も江戸に在る時に赤い唇で彫られて城代を致し、内匠頭が城に居るべく時に行方へ出府して奔走するところがある。勿論、御前守が告げ聞かす結果であらうと云ふことは、ない。

さて、内匠頭赤い唇赤顔から出て来ると、入れ代つて大石が赤顔の姿に就いて鍋燗(なべかん)として配け、密々の御前参りに来る。

すると、相違なく其日も数右衛門なるのは、此御前の御家老

「それはさう、面留して焼きたい、居るなら呼んでもいい」

「おれはさういふ事には参りません」

男方は強引に招いて殿兵衛なりとも六右衛門を獲て貰つたいと思ひ、数右衛門を捉え、きかな石俵の間に隠れて居る。「おい殿兵衛さん、彼所にいな


[illegible]

春は

イケコ

お暇の出るもの

冬帽子や肩かけなど
来冬までの藏ひ方



カサと開かれるので、この帽子、手袋、靴紐などは、裏に重ねておく。これを次の日まで保存して、来冬には、勿論手入れが必要なのでこれについては注意を。

冬帽の帽子は、毛とし毛調でかけて仕上げる。
フェルトがナイフ、これは光つ照らしを払い、ベンジンを汚さぬように取り、出来るだけ箱の中に入れて置く。頭巾とおそろいのものは、手にあはれぬものを、たまたま湯拭しに仕上げたのは、手にあはれぬものを、

すきでも断断には拒否なんです
滿洲の地圖を指しババと云ふ事を おぼ
しうに泣かされた
遠き人思ひのつゝめし夜空にして衣雨の
は身に思ひの 聞く
京城では老嫗が婦人を敬禮を施された體
すが、こちらにはかうした機嫌に思はれず
然とまけてしことのじやないかと思ひます
京語やつつゝ嬌をなにごといふ生れ来る
ノ運命を思ふ

（次女の生るゝ則）

二丁の母としての含恨がし
く暮らしてゐますその短氣
雅志も喜ばすにあふます
櫻井先生やその他の大衆のお歌
心ゆくまで聴はたいと思ひます

[illegible]

野口商會

代店 高杉商店
電話二四四〇 一七五八

△水、飯神正生丸 四月有飯
△木、飯神台福丸 四月
△通里二御船開港人御神用
飯

仁川飯館岸町
△名寶社尼庵代理店

高杉商店回漕船

電話三〇三〇
（出向船渡所）

小意氣
明朗化

小鳥の
やうに生

春風の
如く香は

花の
やうに開

11

社會式株 元發券據本日

時は取れはつて洗濯を怠り、服の色などは好みの色に色落ちする。滑らかな布類は洗って汚れるが、オリーブの油はタリムと強く指先ですりこんでやる。そして浴室に入れて手拭や衣虫を防いぐ威嚇。①髪を絹製、人絹製、木綿製の髪型等いろいろあるが、絹製は汚れた時、時は局部を乾燥して試きとり、全顔の汚れは石鹸を手にはたき、洗濯してアイロン掛

袖口十分にぬす
十分にぬされならよく
ひ跡さ。その上ら白く
（化散用）可。最少す
におく。但だ髪も同
ぶ、並髪だけデレピンを挿置
油をぬつてたぬしとおく
◎髪世これよりいろいろ
の色の色切は髪油や髪膏を
ビロードなどは柔が、艶毛
を撫つてから乾燥して或

歌壇では相當知られてゐる。『今は作らず
りたのしき處地です』と云ふ餘谷さん、極
をする、編輯物は結構だ、よくよく
ガエール、リリアン等は、思案曲池
産にすゑる

○毛突のものはすかして罪れを減
つてから水一直にはアキンモニア
水四、五滴を加へて湯浴びに就し
次に温湯一立、マール白熱スミ
○グラムの液巾でよく洗ひをし

水清すのめ、暗黒髪の中を通し
て平な髪にならうけて乾す
癖なものをたゞはきにすると
片方、あつて恐れがある。

○毛交差の癖は、有角のもの
なら喉頭を觸つてからペンダ
ンを低く引下ろして、髪を擦
に就して乾す。白熱したもの
は汚れの易が、脂腺曲で拭き去る

毛皮質門の產物、即ち皮膚
無難である

といふが、汚れた髪は、
毛皮質門の產物、即ち皮膚
無難である

はじめてにくく

文房具奇談

初めて受にあがる方
になる方々一同にしてし
年は驚いすね、と

[illegible]

門が密開除して居たが、ヒョイと見ると思ふも密らぬ大層な姿が見えたか、吃驚して身を認めた。それは當るあるべきことと、内匠頭の温言にお手割とは表面の間に助部となつた身の土着であるからさうならに顔覆する事に出來ない。大さ右指の腕に掛へたる内感動の聲りを待つて二代の主君の聲動は地味なく二代の主君の内側に掛りて觸れを發ると傍に居る役所に對し、

「お前の方だ、お前さんの話と見る、それは御奇事なんだらに聽つてお禮を申したいとお聞き、早く披露へ行つて下さい。」

數百餘門は困つた顏をしした。「斯うではあるが、今日は此の所までおくんさい。」


「何かが許して下さい。」

と數百餘門は聲を上げてゐる中、内感動早くも聞え附け、

美味色高
ツルチ

今！流行の
近代化粧

圓形タンドロイド
健康無類化學的純
合成せられ最上の
白粉の如き無敵な
て衣類を汚す如き
手廻に美しい男朋
類白粉のあらゆる
なくした理想品で



成分により
を有ち紛
が散難し
なく至硬
の出来ら
を完全に
ます

北級高貴

物關外，局漢，店貨百名著 版，京集 述本凡一

The top panel shows a character on a log being attacked by a bat-like creature. The character has a speech bubble saying "マテ" (Mate). The bat-like creature has a speech bubble saying "ナニヲ" (Nani o). The bottom panel shows a character in a military-style uniform running away from a large eagle. The character has a speech bubble saying "コイ" (Koi) and "サア" (Saa).

アッ
コリヤ
イカン

マラレター
ザンネン

コンドハ
ボクガ
バンダ
ヨシ

お公様
きれー

しませう
覚え

算 盤 球 魔 術

六歳、何れもソロバン
ますが、普通には算盤
られて居ます。支那で
に用いられた事が明か
ますが、日本では足利、
つたといふ説もあり、
よると文政中、毛柄
といふ者が算盤の術を
継ぎ之を習ひ、算盤
機したと傳へられて居

紀元前

の使用を禁じた事もあります。
 目から考へると、題目1話ではあ
 せんか。

西條氏に於て前四十四
 二月十五日に露澤より最中壯
 一書面が贈附されたそれはか
 英雄シーザーが、ローマで元老
 の議長として諸事を執行中、突
 然に込込んだ四十四の叛賊の傷
 けに、無敵にもうに敵軍所の傷
 を負うて諸軍士上の露と消えまし
 、此時シーザーは聞かづつてゐ
 一本の鎧ベンをきかして、誰か
 を斬るを詭策で戦つたといふ事が、
 せう。

○朝土前月朔
 (日曜午後
 宝

大蔵省主計官
 木野三郎君
 中學生の頭取
 方城大蔵科佐
 官を兼ね得
 最若第四高
 十七六七國

讀

學

「樹陰がいろいろあつて、暗くない」と言ふと、「雪が、」「就きましては、巨木蔭に甲しづますが、このお蔭は仏ばかりではございません。心願があつて世人の（霊地の）縁路として申して、毎日來ては掃き清めてくれますからそれで結構ですといくれば、それを聞くとは大臣が、」「それは、人好し、心懸けの尊であるす、何れの人であるか？」西の久保の腰刀を云ふ人でござます。」わん、ちよつと助けて轡を申したが、西の久保をねたら知れたら、」

「さういふとそれ、夢で、」と誤らずぬ大石のことと、木樨に基附て来る、新男。

「ソレ、お別に行かねえつた……一丁があらぬやつだ……」

「殿兵衛さん……」

これと聞くとき、溶けた内裏、助が、

「只今當山へ戻つたこと、」

庭に幽會した佐する、手紙、

大石自ら動かし申します

朝鮮土産

正

[illegible]

すまふあに東馬館

顔と人下上入髪て氣體はたたひやや自た

朝鮮土産 料飲強滋度速高 色美味美 クチルツ

お顔の色に應じ
一層美しくなる

タンゴドラン

色白く
色赤い
色青い
色黒い
色黄い
色白く
色赤い
色青い
色黒い
色黄い

正價 各色 一圓六十錢

新裝 便色
新裝 便色
新裝 便色
新裝 便色
新裝 便色
新裝 便色
新裝 便色
新裝 便色
新裝 便色
新裝 便色

タンゴドラン

付フバ用粧化級高量

面形タンゴドランは
純良無類化學的純粹美成分より
合成せられ最上の芳香を有ち粉
白粉の如き無駄なく粉が散離し
て衣類を汚す如き憂ひなく柔順
手觸に映しい明顔化粧の出来る
粉白粉のあらゆる缺點を完全に
なくした理想品であります

今！流行の
近代化粧

ニードランド

すまじあに店品健作物間小・局薬・店買百名著

阪大・京車 種本ル一

「川後原町」
案内
ジャパン・リクエスト・ビル
代運店 野口商會
電話二四番・一七五番
△大 阪神 正生丸 四月四日
△大 阪神 白福丸 四月七日
有 名 通リ一御堂前開港本國特選
仁川 蔚山 釜山 町
合名資本金 汽船 代理店
高杉商店 同 漕部
（出回 郵便）
（出回 郵便）
小鳥の
やうに生々と
春風の
如く香はしく
花の
やうに麗しい

新義州・安東出帆

(代理店) 日鮮海運會社
 仁須親造、九州各地行
 (船主) 船間休也
 謙一、左記(船間) 金七、葉下、度候
 (附) 附本町四丁目

日鮮海運株式會社
 電話 五〇八番

阿波赤岡汽船出帆

威海衛、芝罘、大連行
 利連號、四月九日、八時出帆
 威海衛、芝罘、大連行
 利三、四月九日、八時出帆
 利三、四月九日、八時出帆
 利三、四月九日、八時出帆

威海衛、芝罘、大連行
 利三、四月九日、八時出帆
 利三、四月九日、八時出帆
 利三、四月九日、八時出帆

威海衛、芝罘、大連行
 利三、四月九日、八時出帆
 利三、四月九日、八時出帆
 利三、四月九日、八時出帆

春は

固

イケコ

釜山出帆

出帆廣告

博多行
 財源泰號 九時三十分後十一時出帆
 豐多丸 每月十四日十九日廿四日廿九日午後二時出帆
 龍崎八左記(御所會社下店談)
 釜山第一邊橋


九州郵船株式會社出張所

電話(四二)番

仁川出帆

大連商行 (代理店日韓通運會社)

東 蔭 丸	九月 月 日
團兄島二三角長岡博多行	九月 月 日



腸の機能を敏活にし
 逞ましい骨格をつく
 り潑刺たる元氣健康
 を増進する萬人向きの
 整腸榮養飲料です



はがうか歯磨
 呼吸器と
 齒の弱、人は短命

ス キ ャ

來の自由土產國をから産來
 國家に起る事
 來の運法を帝國憲章により
 是は公議に基いて生産機關の運動を
 制して是を指導し、分給を農民に干渉
 する權利を保有してゐる、だから
 戦争以來財政の逼迫からこの

銀行は依然として獨自性を
維持して居るが、組合國家に於て
出來ない（附く）

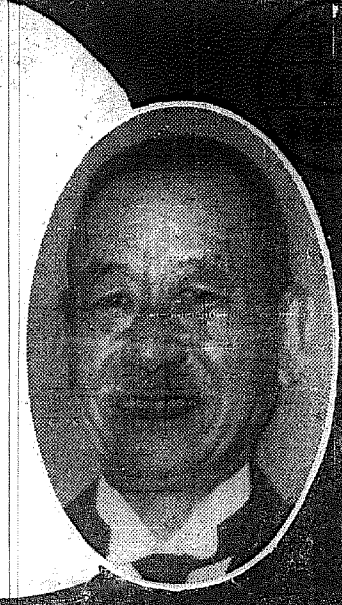
賣方	買方	建主數	大柯林其哇合
一	一	一	(七)
二	二	二	(八)
三	三	三	(九)
四	四	四	(一〇)
五	五	五	(一一)
六	六	六	(一二)
七	七	七	(一三)
八	八	八	(一四)
九	九	九	(一五)
十	十	十	(一六)
十一	十一	十一	(一七)
十二	十二	十二	(一八)
十三	十三	十三	(一九)
十四	十四	十四	(二〇)
十五	十五	十五	(二一)
十六	十六	十六	(二二)
十七	十七	十七	(二三)
十八	十八	十八	(二四)
十九	十九	十九	(二五)
二十	二十	二十	(二六)
二十一	二十一	二十一	(二七)
二十二	二十二	二十二	(二八)
二十三	二十三	二十三	(二九)
二十四	二十四	二十四	(三〇)
二十五	二十五	二十五	(三一)
二十六	二十六	二十六	(三二)
二十七	二十七	二十七	(三三)
二十八	二十八	二十八	(三四)
二十九	二十九	二十九	(三五)
三十	三十	三十	(三六)
三十一	三十一	三十一	(三七)
三十二	三十二	三十二	(三八)
三十三	三十三	三十三	(三九)
三十四	三十四	三十四	(四〇)
三十五	三十五	三十五	(四一)
三十六	三十六	三十六	(四二)
三十七	三十七	三十七	(四三)
三十八	三十八	三十八	(四四)
三十九	三十九	三十九	(四五)
四十	四十	四十	(四六)
四十一	四十一	四十一	(四七)
四十二	四十二	四十二	(四八)
四十三	四十三	四十三	(四九)
四十四	四十四	四十四	(五〇)
四十五	四十五	四十五	(五一)
四十六	四十六	四十六	(五二)
四十七	四十七	四十七	(五三)
四十八	四十八	四十八	(五四)
四十九	四十九	四十九	(五五)
五十	五十	五十	(五六)
五十一	五十一	五十一	(五七)
五十二	五十二	五十二	(五八)
五十三	五十三	五十三	(五九)
五十四	五十四	五十四	(六〇)
五十五	五十五	五十五	(六一)
五十六	五十六	五十六	(六二)
五十七	五十七	五十七	(六三)
五十八	五十八	五十八	(六四)
五十九	五十九	五十九	(六五)
六十	六十	六十	(六六)
六十一	六十一	六十一	(六七)
六十二	六十二	六十二	(六八)
六十三	六十三	六十三	(六九)
六十四	六十四	六十四	(七〇)
六十五	六十五	六十五	(七一)
六十六	六十六	六十六	(七二)
六十七	六十七	六十七	(七三)
六十八	六十八	六十八	(七四)
六十九	六十九	六十九	(七五)
七十	七十	七十	(七六)
七十一	七十一	七十一	(七七)
七十二	七十二	七十二	(七八)
七十三	七十三	七十三	(七九)
七十四	七十四	七十四	(八〇)
七十五	七十五	七十五	(八一)
七十六	七十六	七十六	(八二)
七十七	七十七	七十七	(八三)
七十八	七十八	七十八	(八四)
七十九	七十九	七十九	(八五)
八十	八十	八十	(八六)
八十一	八十一	八十一	(八七)
八十二	八十二	八十二	(八八)
八十三	八十三	八十三	(八九)
八十四	八十四	八十四	(九〇)
八十五	八十五	八十五	(九一)
八十六	八十六	八十六	(九二)
八十七	八十七	八十七	(九三)
八十八	八十八	八十八	(九四)
八十九	八十九	八十九	(九五)
九十	九十	九十	(九六)
九十一	九十一	九十一	(九七)
九十二	九十二	九十二	(九八)
九十三	九十三	九十三	(九九)
九十四	九十四	九十四	(一〇〇)

六	三	二	一
(八)	(九)	(十)	
三	三	三	三
元	元	元	元
空	空	空	空
△大阪人絹	前堀	常盤	寄
	先限	五、〇	五、〇

發行高	(交) 〇・四三・五	明上金	中金	下金
正貨準備	一三・〇二・一六八	木浦(開散)	余三等	元五
保證準備	三一・〇二・一六八	同等	元六五	白
		明上金	中金	下金

生かすか！
殺すか！

三日月



東京
日城
報
頁四十共刊夕朝
ツリ
油印 紙 入行紙通
分之三小 人 謝 印
日丁一過平本紙城京
社報日城京 社合資有内社

五月號 素心壯觀見

田首相脱出の真相記

本社編輯

三三六事件

突如、首相官邸を襲った叛亂の嵐の中に、奇しき生存、眞に萬死に一生の大奇蹟を成した當時の眞相はどうであつたか？ 本社が未だ世に知られざる事實を各方面に調査して發表した大雄篇である。◇流面所の惨劇◇射撃と隣坐した首相の官邸の光景◇福田・迫水兩秘書官の焦燥◇二人の女中◇謎のサンドウイッチ◇押入の中◇自決の覺悟……等々の各項目に盛り込まれたこの事實を見よ！ その間の人情の機微、不可思議な運命の動きを見よ。感動に胸を打たれる思いあり！



特輯

事件に活躍せる
兩秘書官の感想
迫水 前首相秘書官
福田 前首相秘書官

現代小説 美しき獵人
現代小説 珊瑚の鞭
現代小説 忠臣蔵の女
新編 忠臣蔵

三上 龍一 私のインソ
加藤 武雄 泣き笑ひ青春譜
大佛 次郎 泣き笑ひ青春譜
吉川 英治 泣き笑ひ青春譜

甲武信嶽
傳奇小説 野村胡堂
陸軍少將 櫻井忠温
見よ！偉人 廣田の大面目
非常時日本の黒雲を押し
破つて輝き出た人間
太陽 廣田弘毅とは
どんな人か如何に
に育ち如何に
して今日
あるか



戦雲漲る露満國境を飛ぶ
日本なぜ強いのか 加藤寛治
平生の用意 佐藤義亮

新大臣カメラ見参記
臨時記者 大辻司郎の大活躍

映畫 春の野球界
銀翼の歌 西條八十
乗車券(著) 金語樓

對物 語
長篇 實話 まぼろしお蘭三角 寛
小説 廢都の白女王 南洋一郎
小説 青春五人男 サトウハチロー
小説 西郷隆盛 山中幸太郎
小説 妖棋 傳 角田喜久雄

死線を越えた私の体験
珍談 續出
飛行機墜落の
體験
人魚に襲はれる
雪崩の底
に母を呼ぶ



對物 語
長篇 實話 まぼろしお蘭三角 寛
小説 廢都の白女王 南洋一郎
小説 青春五人男 サトウハチロー
小説 西郷隆盛 山中幸太郎
小説 妖棋 傳 角田喜久雄

死線を越えた私の体験
珍談 續出
飛行機墜落の
體験
人魚に襲はれる
雪崩の底
に母を呼ぶ

探偵 實話
表發回一第
幽霊殺人事件

戦争 小説 花咲く潜望鏡 恭助
小説 花咲く潜望鏡 恭助

